

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-130713

(43) 公開日 平成4年(1992)11月30日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号 庁内整理番号
E 2119-3B

F I

技術表示箇所

(21) 出願番号 実願平3-44645

(22) 出願日 平成3年(1991)5月17日

(71)出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(71) 出願人 000158781

紀伊産業株式会社

大阪府大阪市中央区本町1丁目3番20号

(72) 考案者 岩本 久雄

神奈川県小田原市本町4丁目10番15号

(72) 考案者 百合 宏哲

大阪府枚方市印田町13番26号13

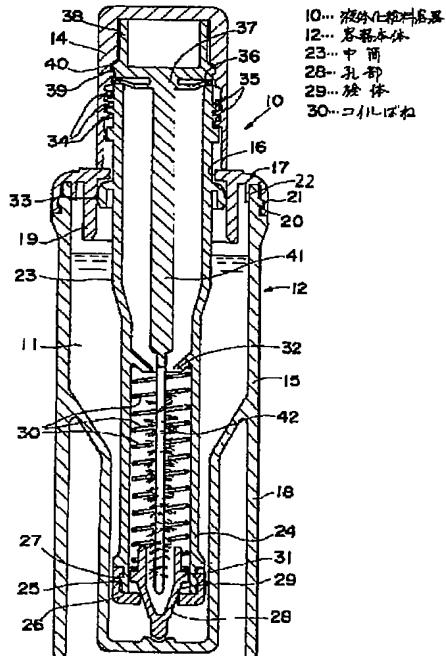
(74) 代理人 弁理士 西藤 征彦

(54) 【考案の名称】 液体化粧料容器

(57) 【要約】

【目的】 容器本体に収容された液体化粧料を定量ずつ取り出すことができ、しかも容器本体に収容された液体化粧料を液密状態で収容することができる液体化粧料容器を提供する。

【構成】 液密性の容器本体1 2の上部開口から液密状態で昇降可能に有底筒状の中筒2 3が挿入され、上記中筒2 3の底部に孔部2 8が穿設され、上記中筒2 3内に上記孔部2 8を塞ぐ栓体2 9が、上記中筒2 3内に設けられたコイルばね3 0によって上記孔部2 8に向かつて押し付け付勢されている。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 液密性の容器本体12と、この容器本体12の上部開口から液密状態で昇降可能に挿入される有底筒状の中筒23とを備え、上記中筒23の底部に孔部28が穿設され、上記中筒23内から上記孔部28を塞ぐ栓体29が、上記中筒23内に設けられたばね材30によつて孔部28外側に向かつて押し付け付勢されていることを特徴とする液体化粧料容器。

【請求項2】 上記中筒23の上部開口に、この開口を蓋するキヤツプ14が設けられ、このキヤツプ14の内部に、上記中筒23の上端開口に対面した状態で可撓性材料製のシール材36が配設され、このシール材36の略中央を上方に延ばして連結片37が形成され、上記シール材36がこの連結片37を介して上記キヤツプ14の内部に固定されている請求項1記載の液体化粧料容器。

2

【図面の簡単な説明】

【図1】 この考案の一実施例を示す斜視図である。

【図2】 上記実施例の縦断面図である。

【図3】 上記実施例の使用態様を示す縦断面図である。

【図4】 この考案の他の実施例を示す縦断面図である。

【図5】 この考案のさらに他の実施例を示す要部断面図である。

【図6】 従来例を示す縦断面図である。

【図7】 従来例の他の例を示す縦断面図である。

【符号の説明】

10 液体化粧料容器

12 容器本体

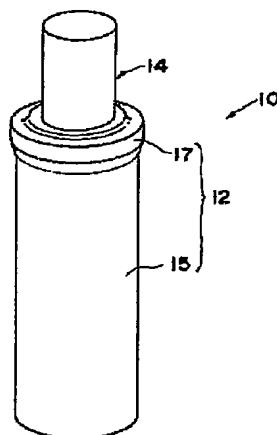
23 中筒

28 孔部

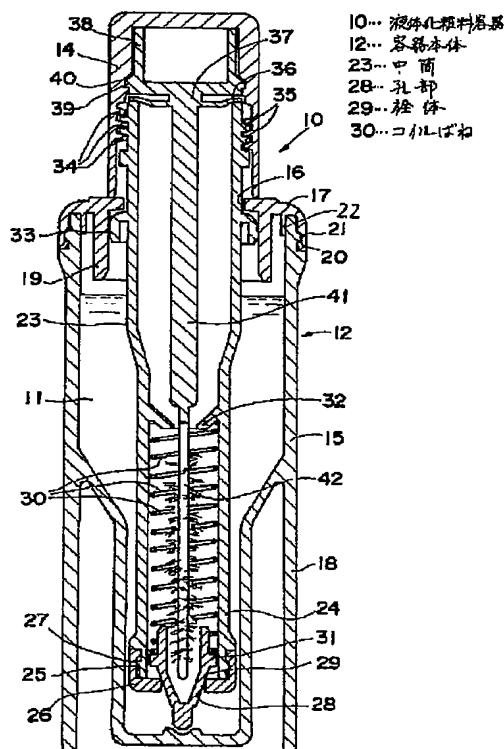
29 栓体

30 コイルばね

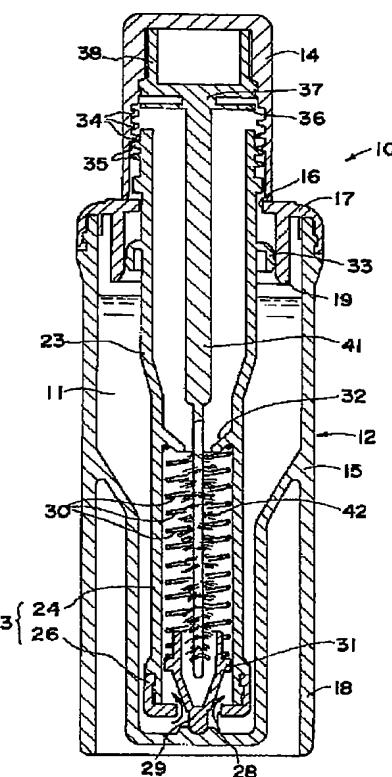
【図1】



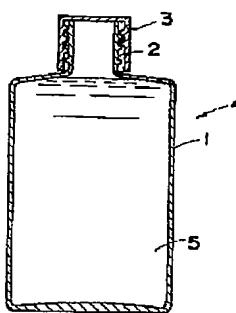
【図2】



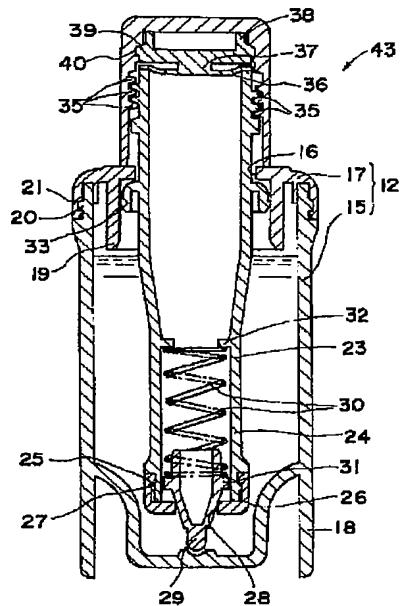
【図3】



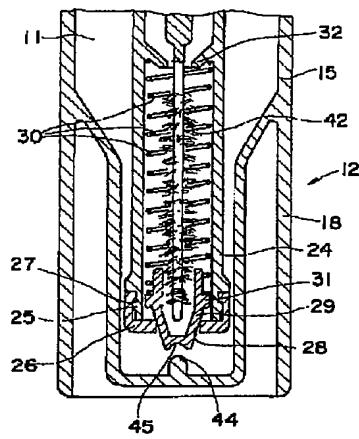
【図6】



【図4】



【図5】



【図7】

